

安心等の地域の理解がより得られやすい土地の選定

■基本的な考え方

- 生活空間との近接状況、水源との近接状況及び自然度からみて候補地として望ましい土地を選定
- 対象となる土地の数が2桁以上となった場合は、適性評価方式により、候補地として優先的に検討すべき土地の絞り込みを行う。
- その後、総合評価方式で詳細調査の候補地を選定する。

■評価項目と評価基準

(1)生活空間との近接状況

1) 住居のある集落との距離

- 住居のある集落(住民が居住する建物)と候補地の距離で評価
- 住居のある集落:500mメッシュで整理された人口データ(国勢調査)において、人口が1名以上記録されているメッシュ内の建物を指す

(2)水源との近接状況

2) 水利点(水道・農業)との距離

- 水道用水と農業用水を取水している表流水や伏流水を対象とした水利点から候補地までの距離で評価
- 地下水については、水道水源となっている場合には、取水施設から候補地までの距離で評価

(3)自然度

3) 植生自然度(1~10段階)

- 自然度の低い方が候補地として高評価。

(参考)植生自然度

- 自然性がどの程度残されているかを示す指標として導入された植生自然度(1～10段階)によって評価
- 自然度の低い方が候補地として高評価
- 利用する情報 「第2～5回植生調査 1/5万植生自然度図(昭和54～平成10年度)」(環境省)
「第6～7回基礎調査1/2.5万植生自然度図(平成11年度～)」(環境省)

各植生自然度の例を以下に示す。



植生自然度10(湿原)
自然草原



植生自然度9(湿帯落
葉樹林)自然林



植生自然度8(ミズナラ二
次林)二次林(自然林に近
いもの)



植生自然度7(コナラ二
次林)二次林



植生自然度6(カマ
ツ人工林)植林地



植生自然度5(草原)
二次草原(背の高い草
原)



植生自然度4(シバ草
原)二次草原(背の低い
草原)



植生自然度3(果樹園)
耕作地(樹園地)



植生自然度2(畑)
農耕地(水田・畑)、緑
の多い住宅地等



植生自然度1(都市)
市街地・造成地等

評価方法について

■評価方法

- 対象となる土地の数が2桁以上となった場合は、適性評価方式により、候補地として優先的に検討すべき土地の絞り込みを行う
- その後、総合評価方式で詳細調査を行う候補地を選定する

① 適性評価方式

項目ごとに評価基準を定めて、絶対評価

○の総数で絞り込み

② 総合評価方式

項目ごとに5段階程度の評価基準を定めて、項目ごとの評価点をつけて
総和した得点の高い候補地から順位付け

■ 適性評価及び総合評価の評価基準

- 生活空間との距離、水源までの距離については、関係5県における既存の廃棄物処理場埋立地に関する指針・指導要綱で定める、説明会や同意等に関する規定を参考に500mを基準の目安として設定。
- 総合評価については、心理的な感覚量(距離感)は実際の距離の対数に比例して知覚されるという関係を参考に評価点数の境界値を設定。

	適性評価	総合評価
生活空間との距離	500m超:○	500m以下 ;1 500m超、1,000m以下 ;2 1,000m超、2,000m以下 ;3 2,000m超、4,000m以下 ;4 4,000m超 ;5
水源までの距離	500m超:○	500m以下 ;1 500m超、1,000m以下 ;2 1,000m超、2,000m以下 ;3 2,000m超、4,000m以下 ;4 4,000m超 ;5
自然度	植生自然度が、8以下;○	植生自然度10、9 ;1 植生自然度8、7 ;2 植生自然度6 ;3 植生自然度5、4 ;4 植生自然度3、2、1 ;5

※候補地が広い場合は、必要面積を確保可能な連続した区画のうち合計点数の高い区画の評価とする。